

平成20年度中間期の自動車部品工業の経営動向

(社) 日本自動車部品工業会

(社) 日本自動車部品工業会は、正会員企業442社のうち、上場企業で自動車部品の売上高比率が50%以上、かつ前年同期比較が可能な自動車部品専門企業85社の平成20年度中間期の経営動向を各社の連結決算短信（※連結決算を行っていない企業は単独決算短信）により集計・分析した。

＜自動車メーカーの状況＞

平成20年度中間期の日本経済は、原油・原材料価格の高騰やそれに伴う諸物価の上昇、さらには輸出の鈍化等により景気が低迷し、さらに米国に始まった世界的な景気後退による影響も大きく受けることとなった。

このような中で、平成20年度の上期の自動車業界の状況についてみると、国内自動車販売は前年に引き続き主に小型乗用車が大きく減少したこと、また軽自動車についても販売減となり国内販売全体で241万8千台、前年度比2.7%減と2年連続で減少となった。一方で完成車輸出はアジア・中近東を始めとする新興地域向けで増加し前年同期比9.7%増の343万9千台となった。この結果、国内生産としては579万1千台、前年度比5.6%増となったものの、上期後半からは国内販売が更に減少し、また輸出についても鈍化がみられる。

リーマンショック以降の金融危機や、円高、原油・原材料価格の高騰等の諸問題についても当面大幅な好転の兆しもないことから、特に北米を中心に自動車生産は引き続き大幅に減少し、厳しい状況が継続すると考えられる。

＜部品メーカーの状況＞

このような中で、上記自動車部品メーカー85社の平成20年度中間期の業績は、前年同期比で特に利益項目が大幅にマイナスとなり、以下の通りとなった。

	19年度	20年度	前年同期比
売上高	10兆7818億円	10兆9045億円	+1.1%
営業利益	6831億円	5379億円	-21.3%
売上高営業利益率	6.3%	4.9%	-
経常利益	7127億円	5867億円	-17.7%
売上高経常利益率	6.6%	5.4%	-
当期利益	4070億円	3004億円	-26.2%
売上高当期利益率	3.8%	2.8%	-

売上高は、アジア等新興地域での自動車生産拡大を受け、輸出の増加や現地生産拡大への対応はあったものの、北米市場の冷え込みが大きく影響し、前年同期比で+1.1%に留まった。

利益に関しては、昨年度後半からのサブプライムローン問題に端を発する北米市場の大幅な需要低迷や車種構成の変化（小型化）、急激な円高の進行、原油・原材料価格の高騰等経営環境の激変があり、各社の収益を圧迫したことで上期は前年度比で大幅な減益となった。このような中で更に足元ではリーマンショック以降の金融危機、全世界的な景気の後退があり、通期の予想では更に厳しい観測が主流を占める状況となっている。

また、地域別の格差もさらに広がってきており、アジアでは減速感があるものの、今中間期においては増収・増益で推移したが、北米では売上・利益ともに大幅な減少、国内では売上こそほぼ横ばいとなったが利益では大幅な減益となっている。このような結果から、売上・利益を国内・北米に多く依存している企業では非常に厳しく、アジア地域でのオペレーションが多くを占めている企業は比較的業績の悪化を避けうる結果になったと考えられる。

各社販管費の削減等の経営努力はしているとはいうものの、売上原価の大幅な増加があり、これが収支を圧迫している。上期後半では多少の下げ感があるものの、原油・原材料価格の高騰と、それを販売価格に転嫁しきれていないことが大きく影響していると考えられる。

平成20年度通期の各社の業績見通しは、年度当初の予測では売上高は前年度比でほぼ横ばい（全体で100.3%）、全体の営業利益・経常利益でも12～13%減となっていたが、その後の急激な経営環境の悪化により、収支予測を下方修正する企業も多くあったため、更に厳しい予想となっている。特に下期での落ち込みが大きく、通期予測は大幅な減収・減益となっている。

背景として、売上面では国内需要に好転の兆しが見えないこと、北米では需要そのものの大幅な減少に加え売れ筋車種の小型化傾向による価格の低下が大きく影響していると考えられる。アジアを中心とする新興地域での生産・売上の伸びも足元で軟化基調となっており、他地域での落ち込みを挽回できるレベルにはないと考えられる。

収益面でも売り上げの減少、為替リスクの増大、原材料価格の製品への転嫁が十分に出来ないだけでなくグローバル競争の激化による部品単価の低下等不透明な部分が多く、各社の経営を上期以上に圧迫することが懸念される。

生産量の変動に対応するための体制の見直し（設備投資、生産体制等）や、更なる原価低減施策の実行、技術の再構築等により各社の体力維持・増強を図ることが必要となってくる。

自動車部品工業の経営動向

—主要上場企業85社の平成20年度中間期の連結決算状況—

1. 対象企業

平成20年4月から平成20年9月までに中間決算期のある正会員上場企業で、売上高に占める自動車部品比率が50%以上の企業85社を対象とした。

2. 経営分析の方法

各社の連結決算短信（連結決算を行っていない企業は単独決算短信）による。

3. 決算状況

(1) 全体集計結果

	19年度	20年度	前年同期比
売上高	10兆7818億円	10兆9045億円	+1.1%
営業利益	6831億円	5379億円	-21.3%
売上高営業利益率	6.3%	4.9%	-
経常利益	7127億円	5867億円	-17.7%
売上高経常利益率	6.6%	5.4%	-
当期利益	4070億円	3004億円	-26.2%
売上高当期利益率	3.8%	2.8%	-

	19年度			20年度		
	増加	減少	合計	増加	減少	合計
売上高	77社	8社	85社	57社	28社	85社
営業利益	54社(1)	31社(4)	85社(5)	34社(1)	51社(2)	85社(3)
経常利益	55社(1)	30社(5)	85社(6)	34社(1)	51社(3)	85社(4)
当期利益	48社(3)	37社(8)	85社(11)	38社(3)	47社(5)	85社(8)

※赤字幅が縮小した場合は「増加」、赤字幅が拡大した場合は「減少」に含める

※（ ）内は赤字計上会社数

① 売上高と営業利益の動向

		営業利益		
		増益	減益	計
売上高	増収	30社 (35.3%)	27社 (31.8%)	57社 (67.1%)
	減収	4社 (4.7%)	24社 (28.2%)	28社 (32.9%)
	計	34社 (40.0%)	51社 (60.0%)	85社 (100.0%)

()は構成比

② 売上高と経常利益の動向

		経常利益		
		増益	減益	計
売上高	増収	28社 (33.0%)	29社 (34.1%)	57社 (67.1%)
	減収	6社 (7.0%)	22社 (25.9%)	28社 (32.9%)
	計	34社 (40.0%)	51社 (60.0%)	85社 (100.0%)

()は構成比

③ 売上高と当期利益の動向

		当期利益		
		増益	減益	計
売上高	増収	29社 (34.1%)	28社 (33.0%)	57社 (67.1%)
	減収	9社 (10.6%)	19社 (22.3%)	28社 (32.9%)
	計	38社 (44.7%)	47社 (55.3%)	85社 (100.0%)

()は構成比

(2) 収益構造

科目	19年度		20年度		
	金額(億円)	構成比	金額(億円)	前年同期比	構成比
売上高	107,818	100.0%	109,045	+1.1%	100.0%
売上原価	91,312	84.7%	93,890	+2.8%	86.1%
販売費及び一般管理費	9,673	9.0%	9,776	+1.1%	9.0%
営業利益	6,831	6.3%	5,379	-21.3%	4.9%
営業外収益	973	0.9%	1,093	+12.3%	1.0%
営業外費用	677	0.6%	605	-10.6%	0.6%
経常利益	7,127	6.6%	5,867	-17.7%	5.4%
特別利益	182	0.2%	124	-31.6%	0.1%
特別損失	333	0.3%	576	+72.8%	0.5%
税金等調整前当期利益	6,977	6.5%	5,416	-22.4%	5.0%
当期利益	4,070	3.8%	3,004	-26.2%	2.8%

(3) 所在地別の売上高、利益の状況

所在地	売上高(億円) (注2)	前年同期比	営業利益(億円)	前年同期比	利益率	
日本	75,474	+2.8%	2,515	-36.2%	3.3%	
海外	北中南米	19,773	-13.4%	404	-51.6%	2.0%
	欧州	10,002	+2.1%	241	-11.9%	2.4%
	アジア	16,459	+10.7%	2,020	+22.1%	12.3%
	分類不可等	2,711	-4.7%	268	+0.8%	9.9%
(消去) (注3)	(15,374)	-	(69)	-	-	
合計 (注4)	109,045	+1.1%	5,379	-21.3%	4.9%	

(注1) 海外所在地の内訳は下記の通りである。

北中南米：カナダ、アメリカ、メキシコ、ブラジル等

欧州：イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、イタリア、チェコ、ハンガリー等

アジア：タイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、シンガポール、台湾、中国、韓国、ベトナム、インド、一部オーストラリアを含む等

(注2) 海外の売上高は、各地域の連結子会社の売上高であり、たとえば日本から海外の顧客あての直接売上（子会社を経由しない場合）は、日本の売上高に計上されている。

(注3) 消去は、所在地間の内部売上高を表す。

(注4) 売上高の合計は、各社の四捨五入処理等の数値を合計しているため、表中の各所在地の売上高数値を単純に集計したとしても、表中の合計数値とは一致しない。

(4) 設備投資の動向 (設備投資と関係の深い有形固定資産取得のための支出額、減価償却費を集計)

※今回キャッシュフローを公開している63社分の数値

① 有形固定資産 (一部無形固定資産を含む) 取得のための支出額

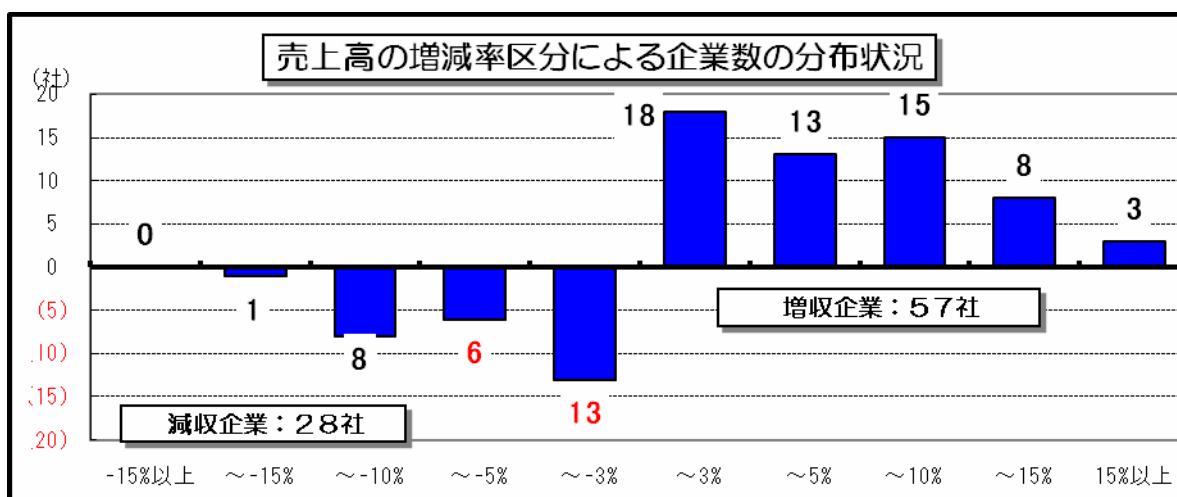
	19年度	20年度	前年同期比
有形固定資産取得のための支出額(億円)	6,503	6,734	+3.6%

② 減価償却費

	19年度	20年度	前年同期比
減価償却費(億円)	4,581	5,078	+10.8%

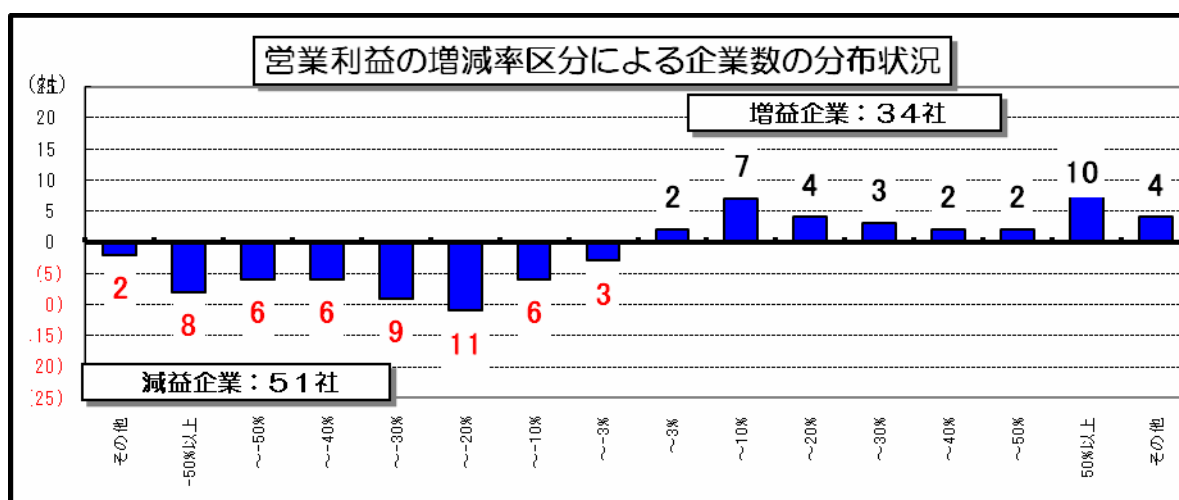
4. 分析結果

(1) 売上高の状況

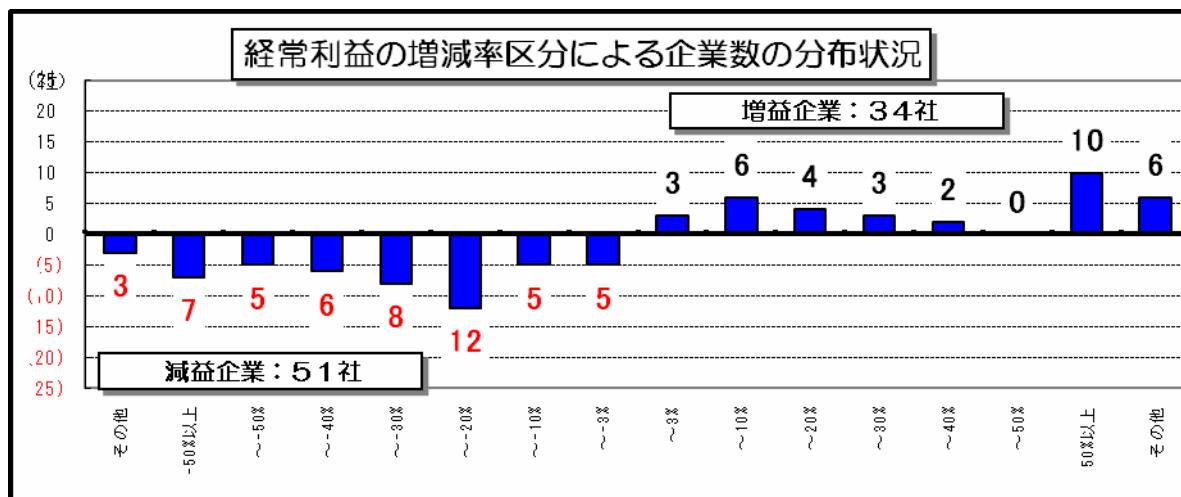


(2) 利益の状況

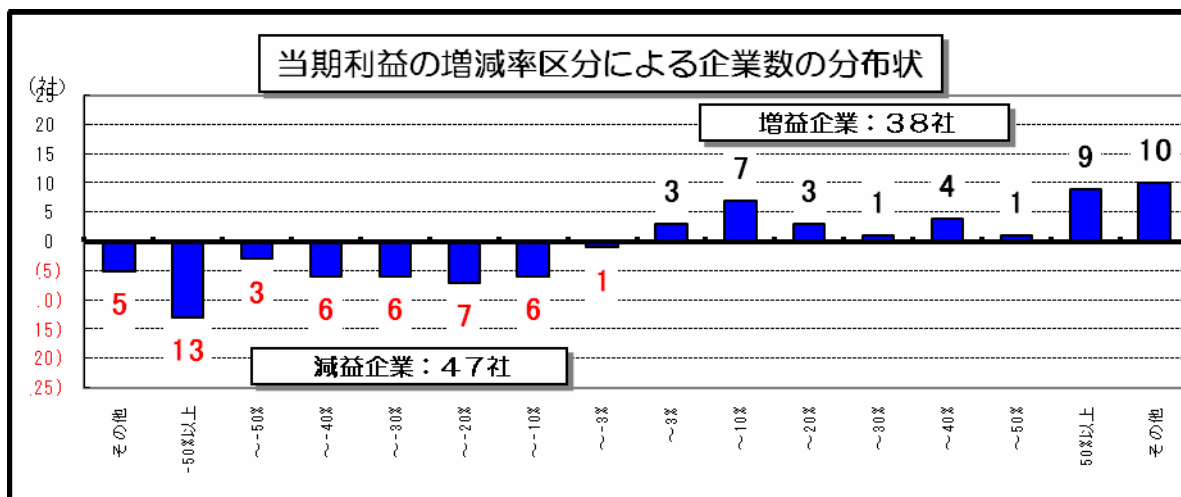
① 営業利益の状況



② 経常利益の状況



③ 当期利益の状況



5. 平成20年度の業績見通し

(1) 全体の業績見通し（対前年度比）

	19年度	20年度見通し	前年度比
売上高	22兆3978億円	21兆1954億円	-5.4%
営業利益	1兆4800億円	9086億円	-38.6%
売上高営業利益率	6.6%	4.3%	-
経常利益	1兆4865億円	9576億円	-35.6%
売上高経常利益率	6.6%	4.5%	-
当期利益	8710億円	5023億円	-42.3%
売上高当期利益率	3.9%	2.4%	-

(2) 全体の業績見通し（対年度当初予測比）

	年度当初見通し	20年度見通し	当初予測比
売上高	22兆4812億円	21兆1954億円	-5.7%
営業利益	1兆2834億円	9086億円	-29.2%
売上高営業利益率	5.7%	4.3%	-
経常利益	1兆3167億円	9576億円	-27.3%
売上高経常利益率	5.9%	4.5%	-
当期利益	7636億円	5023億円	-34.2%
売上高当期利益率	3.4%	2.4%	-

(3) 全体の業績動向見通し

	19年度			20年度		
	増加	減少	合計	増加	減少	合計
売上高	81社	4社	85社	27社	58社	85社
営業利益	64社(0)	21社(1)	85社(1)	14社(0)	71社(1)	85社(1)
経常利益	52社(0)	33社(2)	85社(2)	15社(1)	70社(1)	85社(2)
当期利益	55社(0)	30社(5)	85社(5)	18社(1)	67社(3)	85社(4)

※赤字幅が減少する場合は「増加」、赤字幅が拡大する場合は「減少」に含める。

※（ ）内は赤字計上会社数

(4) 全体の業績動向見通し（売上高と経常利益の動向）

		経常利益		
		増益	減益	計
売上高	増収	11社	16社	27社
	減収	4社	54社	58社
	計	15社	70社	85社

以上